



# もう、「もめごと」は怖くない!?

教育研究室 研究員 木下城康 (きのした じょうこう)

## もめごととは付き物



図 1：争いごとの種類

人が集まる  
ところには、  
もめごとが付  
き物です。も  
めごとは、①  
個人内の葛藤、  
②二人の間で  
起きるもめご  
と、③集団内  
のもの、④集  
団と集団の衝突に大別することがで  
きます(図1)。

私たちの文化圏では、古くから「修身齊家治國平天下」というように個人内の葛藤は内省(修身)によって解決して、それを人間同士のもめごと

自己を尊重	高い	対決	協働
	低い	回避	服従
		低い	高い
		他者を尊重	

図 2：争いごとの解決スタイル (Rahim, 1986)

の解決に応用してきました。モラロジの「慈悲寛大自己反省」の教えは、その代表例といえるでしょう。人と人の間で起きる「もめごと」の解決は、当事者の自尊感情と他者尊重の兼ね合いで変わります。例えば、自尊感情が低く、他者尊重が高い人は「服従」の態度で乗り越えようとして、自尊感情が高く、他者尊重が低いと「対決」して支配的に対

処しようします。両方とも低いと「回避」し、どちらとも中程度だと「妥協」点を探します(図2)。

この傾向が善い悪いということではなく、私たちは、目の前の問題を乗り越えることに困難を覚えると新しい解決方法を求めるようになります。その際に話し合いによる合意形成を通じた自尊の「協働」をめざすには、第三者の協力がが必要です。

## 価値判断を保留する

では、もめごとを解決する人たちはどのように対応しているのでしょうか。代表的な解決テクニックの一つに ALS モデルがあります(図3)。まず、話し合いルールの合意(Agree)を得て、当事者の話をよく聞き

- ① Agree (合意する)
- ② Listen (聞く)
- ③ Solve (解く)

図 3：ALS モデル (Cole, 1999)

物と考え、相手の言い分を遮りたくなる当事者の気持ちを理解し、そのうえで、お互いの発言を最後まで聞いたことを労います。自分の善悪の価値判断を保留して、もめている「内容」、当事者の「気持ち」や「願い(どうして欲しいのか)」を明らかにするのです(池島徳大・竹内和雄、二〇二一)。

個人間や集団内のもめごとと解決研究は、「道徳で人と社会を幸せに」を標榜する当法人のなかで重要な研究課題の一つです。

モラロジを学び、慈悲寛大な心で自己に反省したら、その心で社会のもめごとを解決する「第三者」として、社会に貢献していくことが求められているといえるでしょう。

(Listen)、解決する(Solve)方法を当事者同士で考えるように促します。もめごとを解決する人たちは、人が集まるところにも